

# 平成 15 年中の札幌市の人口動態（住民基本台帳による）

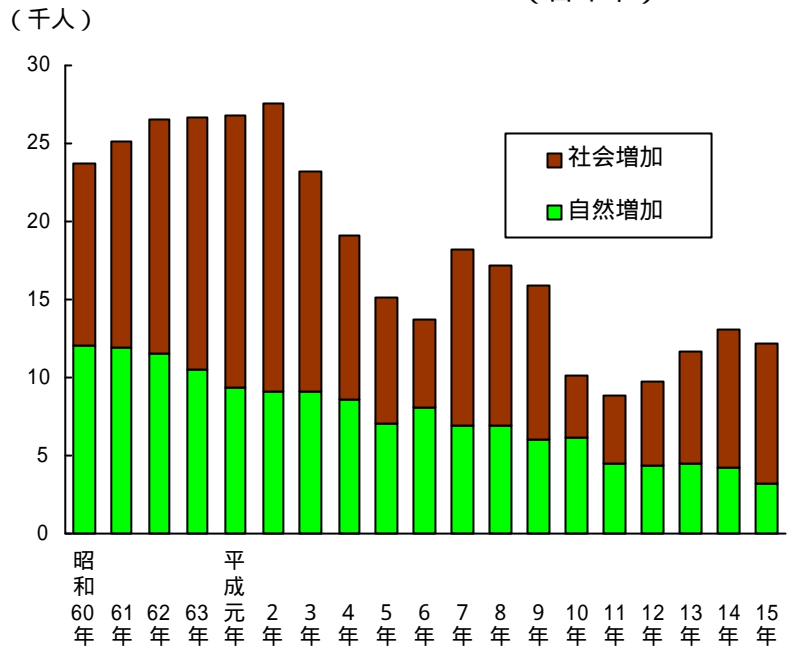
## 1. 概況

平成15年中の人口増加は12,245人（第1表，第1図）

住民基本台帳による平成15年中の人口増加は12,245人で前年（13,049人）を804人下回っている。人口増加規模について，ここ数年の推移をみると，7年の18,177人から11年の8,900人まで縮小が続いた後，12年から14年の13,049人まで拡大が続いたが，15年は12,245人で，再び縮小している。

人口増加を自然増加（出生 - 死亡）と社会増加（転入 - 転出）に区分し，ここ数年の推移をみると，自然増加は，11～14年は4千人台で推移していたが，15年は3,183人となっており，前年4,273人と比べ，大幅に縮小している。一方，社会増加は，11年以降は拡大を続け，15年には9,062人となっている。

第1図 自然増加及び社会増加の推移（各年中）



注：住民基本台帳による数値であり，社会増加には区間移動及び職権等による増減を含む。

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

人口増加に占める自然増加と社会増加の割合についてみると，11年には自然増加（50.4%）と社会増加（49.6%）はほぼ同じであったが，その後は社会増加の割合が一貫して上昇し，15年には自然増加は26.0%，社会増加は74.0%で，社会増加の割合が7割を超えている。

第1表 人口動態の推移

住民基本台帳による。

年次	人口動態			割合 (%)		
	人口増加	自然増加	社会増加 1)	人口増加	自然増加	社会増加 1)
昭和60年	23,716	12,073	11,643	100.0	50.9	49.1
61年	25,082	11,893	13,189	100.0	47.4	52.6
62年	26,550	11,507	15,043	100.0	43.3	56.7
63年	26,728	10,530	16,198	100.0	39.4	60.6
平成元年	26,753	9,419	17,334	100.0	35.2	64.8
2年	27,520	9,145	18,375	100.0	33.2	66.8
3年	23,146	9,114	14,032	100.0	39.4	60.6
4年	19,055	8,634	10,421	100.0	45.3	54.7
5年	15,113	7,015	8,098	100.0	46.4	53.6
6年	13,666	8,112	5,554	100.0	59.4	40.6
7年	18,177	6,921	11,256	100.0	38.1	61.9
8年	17,169	6,875	10,294	100.0	40.0	60.0
9年	15,909	6,052	9,857	100.0	38.0	62.0
10年	10,080	6,207	3,873	100.0	61.6	38.4
11年	8,900	4,489	4,411	100.0	50.4	49.6
12年	9,754	4,361	5,393	100.0	44.7	55.3
13年	11,635	4,533	7,102	100.0	39.0	61.0
14年	13,049	4,273	8,776	100.0	32.7	67.3
15年	12,245	3,183	9,062	100.0	26.0	74.0

注：1) 区間移動及び職権等による増減を含む。

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

## 2. 自然動態

平成15年中の出生数は14,871人で前年を511人下回った(第2表, 第2図)

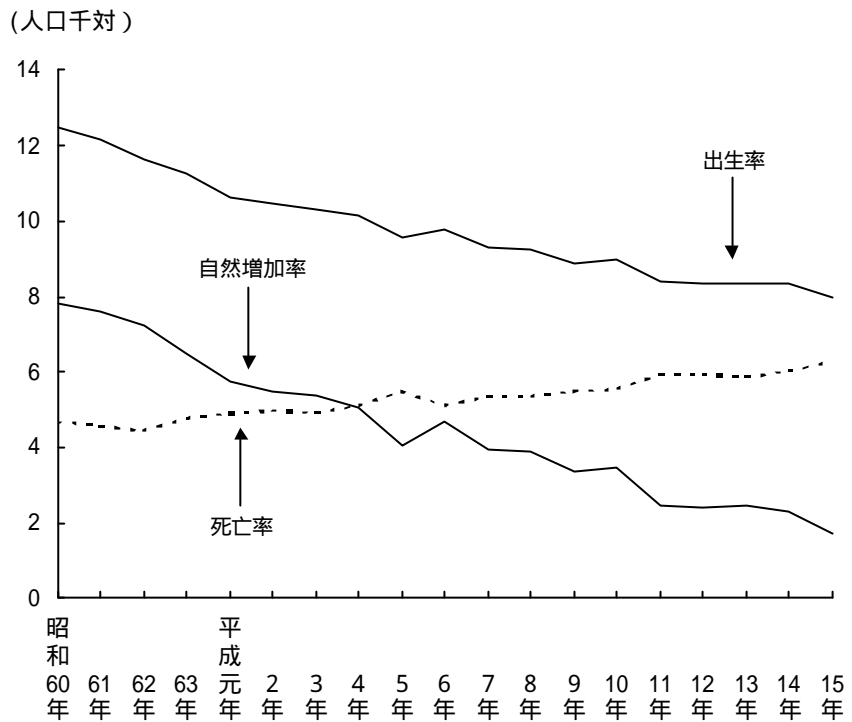
平成15年中の自然動態をみると, 出生数は14,871人で前年(15,382人)を511人下回り, 政令指定都市となった昭和47年以降で最小となった。また, 死亡数は11,688人と前年(11,109人)を579人上回っている。

自然動態の推移を人口千人当たりの比率で見ると, まず出生率(人口千人当たりの出生数)は, 昭和60年以降は概ね低下傾向を示した。その後, 平成11~14年は8.3~8.4とほぼ一定であったが, 15年は8.0に低下している。

次に死亡率(人口千人当たりの死亡数)は, 昭和63年以降に上昇傾向を示した。その後, 平成11~14年は5.9~6.0とほぼ一定であったが, 15年は6.3に上昇している。

出生率と死亡率がこのように推移したため, 人口千人当たりの自然増加の比率は10年まで低下傾向を続けた後, 11~14年は2.3~2.5でほぼ一定であった。しかし, 15年には1.7で前年(2.3)より0.6ポイント低下している。

第2図 出生率, 死亡率及び自然増加率の推移  
(各年中)



注: 住民基本台帳による数値であり, 国勢調査人口及び推計人口(各年10月1日現在)を用いて比率を算出している。

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

第2表 自然動態の推移

住民基本台帳による。

年次	自然動態			比率(人口千対) 1)		
	自然増加	出生	死亡	自然増加	出生	死亡
昭和60年	12,073	19,288	7,215	7.8	12.5	4.7
61年	11,893	19,052	7,159	7.6	12.2	4.6
62年	11,507	18,569	7,062	7.2	11.7	4.4
63年	10,530	18,261	7,731	6.5	11.3	4.8
平成元年	9,419	17,468	8,049	5.7	10.6	4.9
2年	9,145	17,459	8,314	5.5	10.4	5.0
3年	9,114	17,446	8,332	5.4	10.3	4.9
4年	8,634	17,379	8,745	5.0	10.1	5.1
5年	7,015	16,483	9,468	4.1	9.5	5.5
6年	8,112	17,016	8,904	4.7	9.8	5.1
7年	6,921	16,306	9,385	3.9	9.3	5.3
8年	6,875	16,367	9,492	3.9	9.2	5.3
9年	6,052	15,859	9,807	3.4	8.9	5.5
10年	6,207	16,216	10,009	3.4	9.0	5.5
11年	4,489	15,246	10,757	2.5	8.4	5.9
12年	4,361	15,182	10,821	2.4	8.3	5.9
13年	4,533	15,277	10,744	2.5	8.3	5.9
14年	4,273	15,382	11,109	2.3	8.3	6.0
15年	3,183	14,871	11,688	1.7	8.0	6.3

注: 1) 「比率」算出に用いた人口は, 国勢調査人口及び推計人口(各年10月1日現在)である。

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

### 3. 社会動態

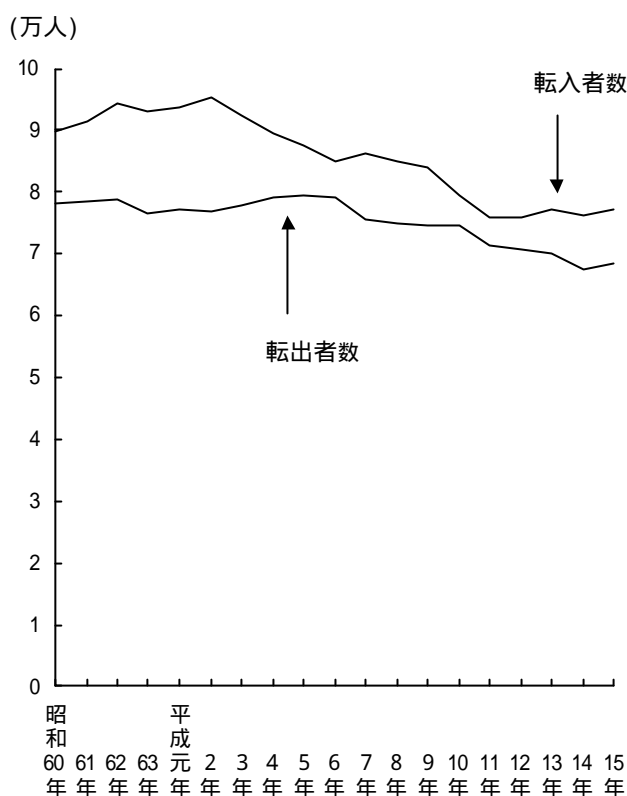
平成15年中の転入超過数は8,929人で前年(8,874人)を55人上回る(第3表, 第3, 4図)

平成15年中の社会動態をみると,市外から札幌市への転入者数は77,258人と前年(76,296人)を962人上回っている。最近の推移をみると,2年の95,301人をピークとして,3年以降は減少傾向を示してきたが,11年の75,735人を底として12年以降は増加傾向を示している。

市外への転出者数は68,329人と前年(67,422人)を907人上回っている。最近の推移は,7~10年にかけては7万5千人前後で推移した後,11年以降は減少傾向にあったが,15年には増加に転じている。

市外との転入超過数(転入者数 - 転出者数)をみると,8,929人の転入超過となっており,前年(8,874人)を55人上回っている。最近の推移をみると,転入超過規模は8年以降縮小を続け,11年には4,309人となったが,12年以降は拡大を続けている。

### 第3図 転入・転出者数の推移



注：住民基本台帳による。  
 <資料> 企画調整局企画部企画調査課

### 第3表 道内・道外別転入・転出者数の推移

住民基本台帳による。

年次	転入者数			転出者数			転入超過数		
	総数	道内	道外	総数	道内	道外	総数	道内	道外
昭和60年	89,838	63,610	26,228	78,106	44,582	33,524	11,732	19,028	7,296
61年	91,605	64,766	26,839	78,588	43,258	35,330	13,017	21,508	8,491
62年	94,509	67,460	27,049	78,766	43,193	35,573	15,743	24,267	8,524
63年	93,091	65,160	27,931	76,532	42,728	33,804	16,559	22,432	5,873
平成元年	93,726	64,873	28,853	77,301	43,655	33,646	16,425	21,218	4,793
2年	95,301	64,397	30,904	76,966	43,253	33,713	18,335	21,144	2,809
3年	92,320	61,057	31,263	77,871	45,321	32,550	14,449	15,736	1,287
4年	89,557	57,985	31,572	79,045	46,722	32,323	10,512	11,263	751
5年	87,659	56,532	31,127	79,529	47,882	31,647	8,130	8,650	520
6年	85,052	54,440	30,612	79,248	49,008	30,240	5,804	5,432	372
7年	86,238	54,691	31,547	75,629	45,480	30,149	10,609	9,211	1,398
8年	85,017	54,143	30,874	75,015	44,146	30,869	10,002	9,997	5
9年	84,038	53,625	30,413	74,560	42,949	31,611	9,478	10,676	1,198
10年	79,563	49,700	29,863	74,464	40,503	33,961	5,099	9,197	4,098
11年	75,735	47,380	28,355	71,426	39,422	32,004	4,309	7,958	3,649
12年	76,059	48,348	27,711	70,882	38,804	32,078	5,177	9,544	4,367
13年	77,180	48,789	28,391	69,994	36,952	33,042	7,186	11,837	4,651
14年	76,296	48,189	28,107	67,422	36,347	31,075	8,874	11,842	2,968
15年	77,258	49,237	28,021	68,329	36,447	31,882	8,929	12,790	3,861

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

次に社会動態を道内・道外別にみると、道内については、15年中の転入者数は49,273人で前年(48,189人)を1,048人上回っている。推移をみると、昭和62年(67,460人)をピークとして63年以降は減少傾向を示し、平成10年(49,700人)には5万人を割った。その後、12～14年は4万8千人台で推移したが、15年には49,237人に増加している。

道内への転出者数は36,447人で前年(36,347人)を100人上回っている。最近の推移は、6年の49,008人をピークとして7年以降減少していたが、13年以降は3万6千人台で推移している。

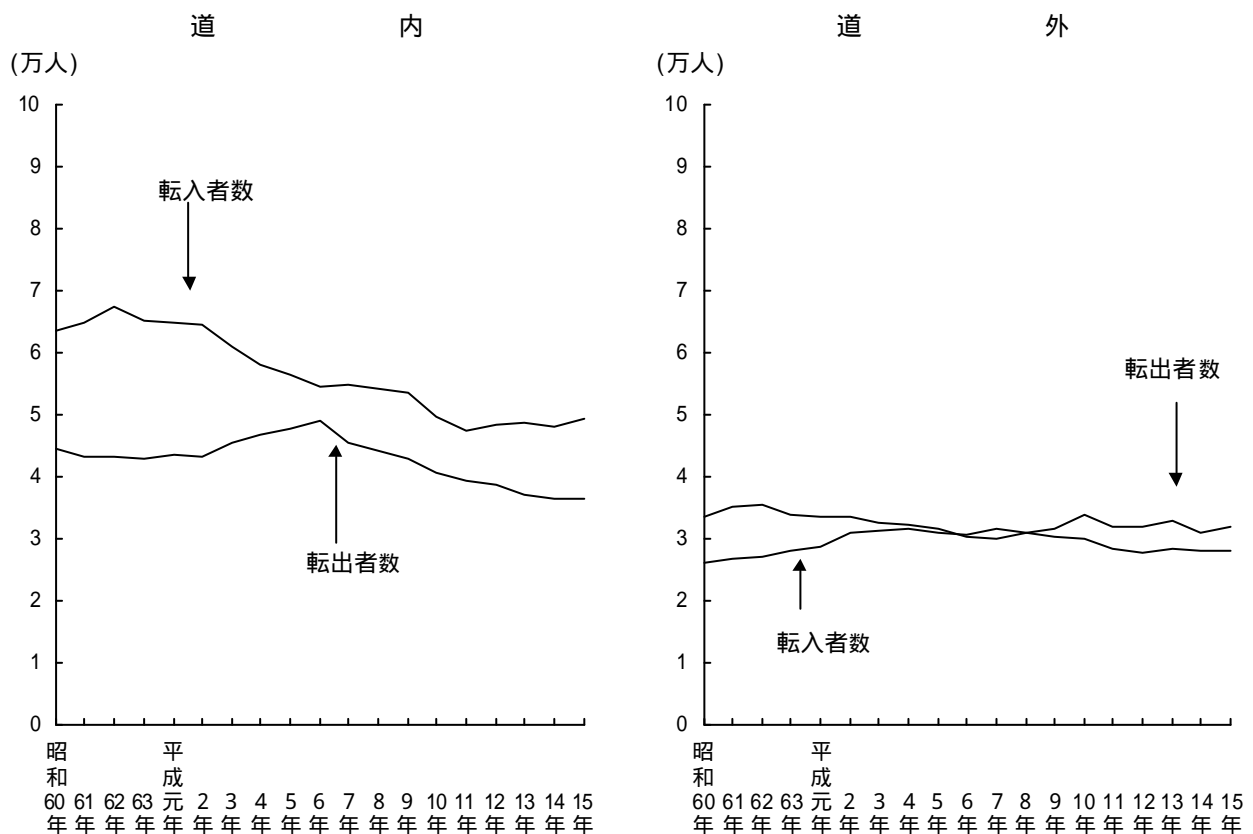
道内との関係では、常に転入超過の状態が続いており、15年は12,790人の転入超過で前年(11,842人)を948人上回っている。最近の推移は、5年以降は9年を除き1万人を割っていたが、13年、14年は1万1千人台となり、15年には12,790人に拡大している。

次に道外については、15年中の転入者数は28,021人で前年(28,107人)を86人下回っている。最近の推移をみると、2～9年にかけては3万1千人前後で推移していたが、10年(29,863人)には3万人を割り、11年以降は2万8千人前後で推移している。

道外への転出者数は31,882人で前年(31,075人)を807人上回っている。最近の推移をみると、5～9年は3万～3万1千人台で推移していたが、10年には33,961人と増加を示した。その後、11年、12年は3万2千人程度で推移し、13年には33,042人で増加したが、14年、15年には3万1千人台となっている。

道外との関係では15年は3,861人の転出超過で前年の転出超過数(2,968人)を893人上回っている。最近の推移をみると、6～8年には転入超過であったが、9年以降は転出超過が続いている。

第4図 道内・道外別転入・転出者数の推移



注： 住民基本台帳による。  
 <資料> 企画調整局企画部企画調査課

#### 4. 道内地域別転入・転出者数

「周辺5市と石狩郡部」が再び転出超過となった(第4表)

道内を「主要8市」(函館市,小樽市,旭川市,室蘭市,釧路市,帯広市,北見市,苫小牧市),「周辺5市と石狩郡部」(江別市,千歳市,恵庭市,北広島市,石狩市,当別町,新篠津村,厚田村,浜益村),「その他の市部」及び「その他の郡部」の4地域に分けて,平成15年の転入者数,転出者数,転入超過数をみてる。

まず 転入者数については,「主要8市」からが20,901人と最も多く,以下,「その他の郡部」が11,705人,「その他の市部」が8,460人,「周辺5市と石狩郡部」が8,171人となっており,前年と比べると,全ての地域で増加している。

また,15年の転出者数については,「主要8市」へが14,670人と最も多く,以下,「周辺5市と石狩郡部」が8,365人,「その他の郡部」が7,931人,「その他の市部」が5,481人となり,前年と比べると,「主要8市」と「周辺5市と石狩郡部」では増加しているものの,他の2地域では減少している。

次に,15年の転入超過数をみると,「主要8市」が6,231人と最も多く,以下,「その他の郡部」が3,774人,「その他の市部」が2,979人と続いている。一方,「周辺5市と石狩郡部」は194人の転出超過となっている。前年と比べると,「主要8市」,「その他の郡部」及び「その他の市部」の転入超過規模は拡大している。また,「周辺5市と石狩郡部」は,14年には転入超過であったが,15年は再び転出超過に転じている。

### 第4表 道内地域別転入・転出者数の推移

住民基本台帳による。

年次	総数	主要8市1)	周辺5市と石狩郡部							各年中	
			総数	江別市	千歳市	恵庭市	北広島市	石狩市	石狩郡部2)	その他の市部	その他の郡部
平成10年	49,700	21,255	7,370	2,238	1,217	759	1,238	1,267	651	8,774	12,301
11年	47,380	20,322	7,795	2,362	1,245	816	1,240	1,458	674	8,116	11,147
12年	48,348	20,414	8,202	2,378	1,290	1,028	1,369	1,478	659	8,200	11,532
13年	48,789	20,783	8,090	2,353	1,278	926	1,359	1,547	627	8,407	11,509
14年	48,189	20,565	8,152	2,368	1,338	964	1,440	1,383	659	8,113	11,359
15年	49,237	20,901	8,171	2,481	1,289	922	1,362	1,474	643	8,460	11,705
			転出者数								
平成10年	40,503	16,200	8,817	2,798	1,193	860	1,671	1,605	690	6,370	9,116
11年	39,422	15,602	9,208	2,933	1,132	766	1,856	1,841	680	5,941	8,671
12年	38,804	15,547	8,864	2,522	1,251	841	1,829	1,815	606	5,808	8,585
13年	36,952	14,869	8,304	2,317	1,189	900	1,758	1,615	525	5,626	8,153
14年	36,347	14,649	8,090	2,207	1,194	947	1,658	1,618	466	5,674	7,934
15年	36,447	14,670	8,365	2,294	1,226	1,002	1,709	1,682	452	5,481	7,931
			転入超過数								
平成10年	9,197	5,055	1,447	560	24	101	433	338	39	2,404	3,185
11年	7,958	4,720	1,413	571	113	50	616	383	6	2,175	2,476
12年	9,544	4,867	662	144	39	187	460	337	53	2,392	2,947
13年	11,837	5,914	214	36	89	26	399	68	102	2,781	3,356
14年	11,842	5,916	62	161	144	17	218	235	193	2,439	3,425
15年	12,790	6,231	194	187	63	80	347	208	191	2,979	3,774

注: 1) 函館市,小樽市,旭川市,室蘭市,釧路市,帯広市,北見市及び苫小牧市。 2) 当別町,新篠津村,厚田村及び浜益村。

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

## 5. 各区の人口動態

平成15年中の人口増加は、中央区が3,708人で最も多い(第5, 6表)

平成15年中の人口増加を区別にみると、中央区が3,708人で最も多く、以下、北区が3,437人、豊平区が1,642人、白石区が1,018人、西区が924人、清田区が554人、東区が530人、厚別区が475人、手稲区が388人、南区がマイナス431人となっており、南区を除く全ての区で前年に比べて人口が増加している。

人口増加を自然増加と社会増加に区分してみると、自然増加は南区を除いた9区で増加を示している。また、社会増加は東区及び南区で減少しているものの、他の8区では増加しており、特に中央区と北区の増加が目立っている。

自然増加、社会増加がともに増加を示した8区について、自然増加と社会増加の規模を比較すると、自然増加が社会増加を上回っている区は白石区のみであり、その他の7区は社会増加が自然増加を上回っている。また、社会増加が減少している2区のうち、東区は自然増加の規模が社会減少の規模を上回っているため人口は増加している。南区については、自然増加、社会増加とも減少しているため人口は減少となっている。

区間移動による人口増加を区別にみると、北区が1,712人、中央区が1,102人と、この2区で大幅に増加し、一方、東区がマイナス1,390人の大幅な減少となっている。内訳をみると、北区は主に東区からの転入超過により増加しており、逆に東区は主に北区への転出超過により減少している。中央区は他の9区に対し転入超過となっており、特に北区、東区及び南区からの転入超過数が大きくなっている。

### 第5表 各区の人口動態

住民基本台帳による。

平成15年中

区	人口増加	自然動態			社会動態				
		自然増加	出生	死亡	社会増加	市外との移動による増加	区間移動による増加	職権等増減	
全市	12,245	3,183	14,871	11,688	9,062	8,929	-	133	
中央区	3,708	126	1,405	1,279	3,582	2,473	1,102	7	
北区	3,437	385	1,990	1,605	3,052	1,334	1,712	6	
東区	530	752	2,384	1,632	222	1,121	1,390	47	
白石区	1,018	625	1,861	1,236	393	942	594	45	
厚別区	475	124	928	804	351	303	54	6	
豊平区	1,642	576	1,763	1,187	1,066	1,282	256	40	
清田区	554	221	818	597	333	39	429	57	
南区	431	75	1,023	1,098	356	172	555	27	
西区	924	400	1,751	1,351	524	1,054	545	15	
手稲区	388	49	948	899	339	287	43	9	

<資料> 企画調整局企画部企画調査課

### 第6表 前住地別区間転入超過状況

住民基本台帳による。

平成15年中

前住地	転入地										
	全市	中央区	北区	東区	白石区	厚別区	豊平区	清田区	南区	西区	手稲区
全市	-	1,102	1,712	1,390	594	54	256	429	555	545	43
中央区	1,102	-	197	248	142	130	12	51	171	2	149
北区	1,712	197	-	1,039	62	23	160	81	68	373	103
東区	1,390	248	1,039	-	124	44	57	50	4	64	8
白石区	594	142	62	124	-	132	35	92	56	46	17
厚別区	54	130	23	44	132	-	109	136	24	77	5
豊平区	256	12	160	57	35	109	-	217	232	77	5
清田区	429	51	81	50	92	136	217	-	26	15	25
南区	555	171	68	4	56	24	232	26	-	43	13
西区	545	2	373	64	46	77	77	15	43	-	308
手稲区	43	149	103	8	17	5	5	25	13	308	-

<資料> 企画調整局企画部企画調査課